

## 小城市立小城中学校

### 令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析と今後の取組について

令和7年10月

中学3年生を対象に今年4月に実施された、全国学力・学習状況調査（国語・数学・理科・意識調査）について、結果の分析と今後の取り組みをお知らせします。

国語、数学、理科につきましては、学習指導要領の内容「知識・技能」「思考・判断・表現」別に分析と改善に向けた取り組みをまとめています。

また、意識調査（生徒質問紙）につきましては、全国・県と比較して数値がとくに高かった項目、低かった項目点についてグラフ化し、結果の分析と今後の取り組みについて示しています。

#### 【小城中学校の国語、数学、理科調査の正答率について】

国語	：	正答率は国・県の平均と比べ	「ほぼ同じ」
数学	：	正答率は国・県の平均と比べ	「やや下回る」
理科	：	正答率は国・県の平均と比べ	「ほぼ同じ」

#### 【個人票（調査結果）について】

本資料とともに生徒に配付しています。

なお、採点は国で行っているため、答案用紙の返却はありません。

#### 【今回の調査を受けて】

今回の調査を受けて、職員で結果分析と今後の具体的な取り組みについて協議しました。強みとなっている部分をさらに伸ばしていくとともに、弱みとなっている部分に対する効果的な取組を実践していきます。

本校では、「起床時間、就寝時間が一定している生徒が多い」、「1日当たりの読書時間が多い」、「一日の家庭学習時間が増加した」という調査結果が出ています。その結果、基本的な知識・技能が全国・県とほぼ同じ水準に達していました。一方で、思考・判断を問う問題や記述式の問題の正答率がやや低く、課題と考えています。今後とも学校と家庭が両輪となって、課題の改善を図ることが必要と考えております。引き続き、子どもたちの健やかな心身の成長のため、本校の取組に御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査《 国語 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

- 評価の観点において、「知識・技能」では県を大きく上回っている。「思考・判断・表現」では県とほぼ同じである。
- 問題形式において、「選択式」や「短答式」では県、全国平均をやや上回っている。その一方、「記述式」では県、全国をやや下回っている。
- 記述式の問題は無回答が比較的に多い傾向にある。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能の問題は県や全国に比較して正答率が高い。</li> <li>○同音異義語の正答率が高い。</li> <li>○語句の意味や漢字の知識について正答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日ごろの漢字テストや意味調べ、短文づくりの成果が表れていると考えられる。今後も継続して学習を進めてく。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思考・判断・表現の問題は県や全国に比較して正答率はほぼ同じである。</li> <li>○複数の条件を満たして記述する問題に課題がある。</li> <li>○文章の構成や展開について根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。</li> <li>○語句の用法や叙述の仕方などに留意し、文章を整えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○单元ごとに、自分の言葉で書く活動を組み込み、表現の機会を増やす。</li> <li>○条件を捉えて書く活動や、根拠を明確にして自分の考えを書く活動を取り入れる。</li> <li>○読むことにおいて構成や展開に着目する機会を増やし、その効果を考える学習を取り入れる。</li> </ul>

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査《 数学 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

○評価の観点において、「知識・技能」では県とほぼ同じ。「思考・判断・表現」では県よりやや下回っている。

○領域別において、「数と式」、「図形」、「データの活用」では県とほぼ同じであるが、図形ではやや下回っている。

○問題形式においては、「選択式」と「短答式」で県とほぼ同じであるが、「記述式」で県を大きく下回っている。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明するために反対の例をあげること、必ず起こる事柄の確率を表すことができる生徒が多い。</li> <li>○割合の意味の理解と、その上で文字式を用いて数量を表すことが苦手な生徒が多い。</li> <li>○領域「関数」で、変化の割合の意味を理解していない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○割合については、全学年を通して指導を適宜行い、繰り返し問題を解かせる。</li> <li>○2年生で学習する変化の割合の意味を、3年生の「関数」においても再度指導する。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数の性質を説明する問いで、目的に応じて文字式を変形したり、その式から数学的な表現を使って説明したりすることを苦手とする生徒が多い。</li> <li>○領域「関数」における、グラフから情報を読み取ること、また読み取する方法を説明することが難しく、無回答率も高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字式によるいろいろな数の表し方を定着させる。</li> <li>○数学的な表現を使って説明する流れ・パターンを繰り返し練習させる。</li> <li>○実生活と結びつく関数の利用問題を多く提示し、伴って変わる2つの数量を意識させることを支援していく。</li> <li>○グラフから情報を読み取する方法を学習する際に、グループ学習などの対話的な学習で定着を図る。</li> </ul>

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査《 理科 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

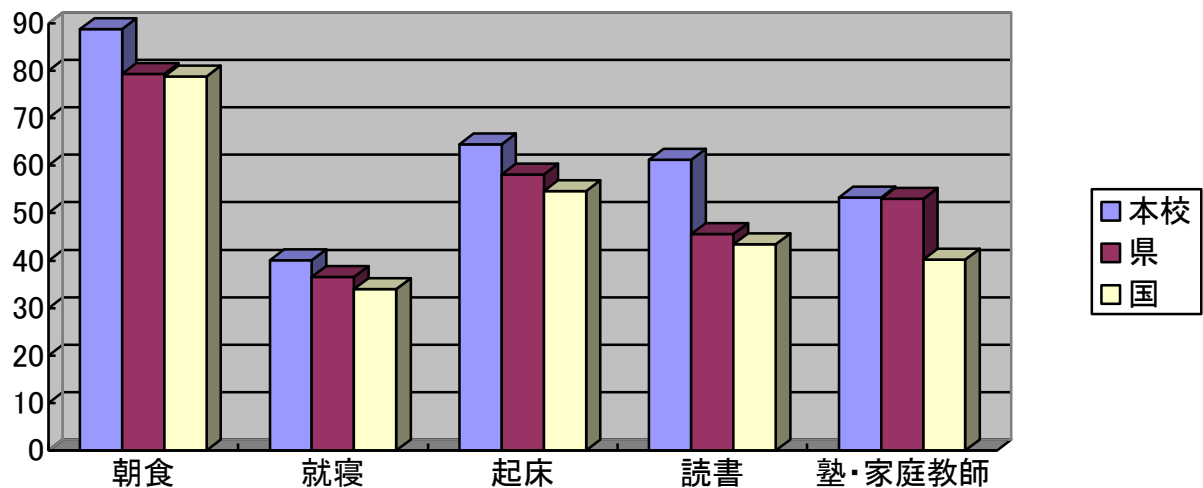
- 正答数において、県とほぼ同じである。
- 領域別において、「エネルギー」では県よりやや上回っている。一方、「粒子」では県よりやや下回っている。
- 問題形式において、「選択式」では県とほぼ同じ、「記述式」では県をやや下回っている。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○元素記号と物質のつながりがあいまいな生徒が多い。</li> <li>○実験・技能に関する問題の正答率が低い。</li> <li>○基礎的な内容の定着が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○元素記号と物質を結びつけるような演習を行う。</li> <li>○実験において全員が理解して進めるように、役割分担をしたり、振り返りをしたりさせる。</li> <li>○ワークなどの演習では、基礎問題を丁寧に見直させる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地学分野の無回答率が低く、正答率が高い。</li> <li>○粒子の分野で、記述問題の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地学分野では、発展的な問題により多く取り組ませる。</li> <li>○実験から考察する力が必要であり、なぜこのような結果になるのかを考えさせる機会をつくる。</li> </ul>

## 生活習慣に関する意識調査

全国・県と比べて数値が高かった項目 \* 「はい」の回答で比較

	調査の項目
1	朝食を毎日食べていますか
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
4	学校の授業時間以外に、普段1日当たり10分以上読書をしますか
5	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか



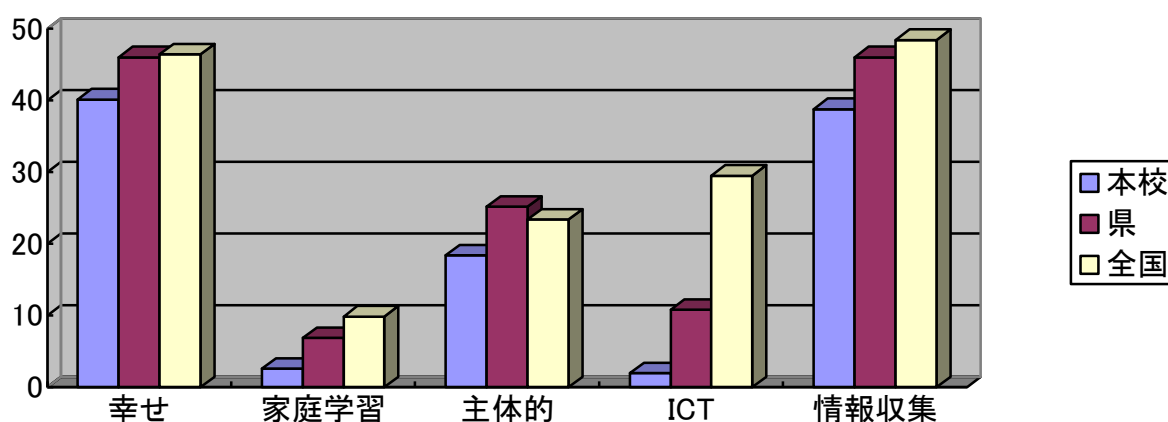
### 分析と取り組み

【分析】規則正しい生活習慣がおおむね確立されている。読書に取り組んでいる生徒や学校外での学習活動に取り組んでいる生徒も多い。しかし、その成果が学習に十分反映されていない。

【取組】家庭での有効な時間な使い方について、AARサイクル（見通し、行動、振り返り）を活用できるように支援する。具体的には、家庭学習、塾・家庭教師への取り組み方、学習内容の精選、読書の有効活用法などについて、桜ノートに記入できるように指導し、成果を見取る。また家庭への通信や保護者会などを通して、保護者への支援協力をお願いすることで、成果へとつなげる。

全国・県と比べて課題となる項目 \* 「はい」の回答で比較

調査の項目	
1	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
2	学校の授業時間以外に、普段1日当たり3時間以上勉強していますか
3	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
4	授業で、ICT機器をほぼ毎日使用しましたか
5	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集することができますか



#### 分析と取り組み

【分析】家庭学習時間が1時間以上の生徒は増加した。しかし、3時間以上の生徒は少ない傾向にある。合わせて、ICTを活用した学習や情報を収集すること、主体的に学習に取り組むことなども低い傾向にある。また、学校は楽しいと思っているが、幸せな気持ちになることがやや下回っている。

【取組】家庭での有効な時間な使い方について、AARサイクル（見通し、行動、振り返り）を活用できるように支援する。そのために、授業でのタブレット活用を、さらに取り入れていく。特に、総合的な学習において、ICTを活用したプレゼンテーションの場を増やすなど活用法を強化していく。また、各教科の授業、道徳など、さまざまな場面で対話的な学習の場面を増やし、学びを深めていく機会を設ける。その際、対話の基礎となる話し合いの仕方や必要な語句などの知識・技能を高める指導を学校全体で取り組んでいく。このようにして、ICT活用能力を高め、同時に主体性と対話力を高めていくことで、充実した家庭学習につながり、学習の成果も感じ取ることができるようになり、自己肯定感も高められるようにする。